

令和4年度学校経営の重点等

1 学校経営の重点

(1) 教育目標

- ア 鈴蘭台高等学校の校訓である「優雅」と鈴蘭台西高等学校の校訓である「創造」に、新たに「共生」を加えて校訓とし、これらの校訓のもと、自主自律の精神に富んだ人づくりをめざす。
- イ 国際関係コース(国際コミュニケーションコース)を有する神戸市内唯一の県立学校として、グローバル化の進む社会において、世界的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会の実現をめざしつつ、国際社会で活躍できる人づくり、変化の激しい社会においても、幅広く活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざす。

(2) 重点目標

教育目標の実現に向けて、以下の重点目標を定める。

日々の教育活動を通じて「自律心」と「行動力」を育み、知・徳・体の調和のとれた自立する人間として、自らの夢や希望を実現できる人材の育成に努める。

(3) めざす学校像・生徒像・教師像

日々の教育活動を通じて具現化をめざす姿として、以下の学校象・生徒像・教師像を定める。

ア めざす学校像：生徒と教師がともに自己の成長を日々実感できる学校

- a 生徒一人ひとりが輝くことができる学校
- b 個性を尊重し、こころ豊かな人間性を育む学校
- c 生徒が互いに認め合い、学び合い、支え合える学校
- d 入学してよかった、卒業してよかったと心から思える学校

イ めざす生徒像：自ら立てた志を得るために自律心と行動力を持って取り組む自立した生徒

- a 失敗を恐れることなく新たなことに挑戦できる生徒
- b 高い受容性と寛容性、共感性を持って他者を大切にできる生徒
- c 自らが関わる集団に、高い協調性と積極性を持って貢献できる生徒
- d 日々の教育活動に、明確な目標意識を持って取り組むことができる生徒

ウ めざす教師像：確固たる自律心に根ざした自立的な生き方を体現する生徒を育てる教師

- a 謙虚さを失うことなく、常に向上心を持って学び続ける教師
- b 生徒とともに歩み、寄り添い、夢や希望の実現に向けた適切な支援ができる教師
- c 「教育のプロ」を体現し、生徒や保護者、地域社会からの確固たる信頼を集める教師
- d 学び甲斐、働き甲斐のある学校づくりに貢献できる教師

(4) 重点実践目標

教育目標及び重点目標を実現するために、以下の重点実践目標を定める。

ア 夢や希望、志を実現するために必要な「確かな学力」を育成する。

- a 生徒が夢や希望を持ち、将来の目標を適正に定められるよう、キャリア教育及び進路指導のさらなる充実を図る。
- b 生徒の基本的な生活習慣、基礎的・基本的な学力の定着や体力の向上を図る。
- c 将来の進路目標を実現し、社会で活躍し貢献できる人づくりを進めるため、基礎的・基本的な知識に加え、それを活用する思考力・判断力・表現力・主体的に学習に取り組む意欲・態度等の確かな学力の充実を図る。

イ 生命を尊重し自他に対する肯定的な態度や豊かな心、すこやかな身体を育む。

- a 体験活動を通して自ら学び、考え、体得する教育に注力し、時代を越えて変わらない倫理観や公共心の育成など、心の教育の充実を図るとともに豊かな人間性を育成する。
- b 校内の緑化と美化に励む伝統を継承し、本校の恵まれた自然環境の中で、生徒の豊かな情操を養う。

- c 生命の尊さや、他を思いやる心を育て、防災・安全教育を充実させる。
- ウ 国際理解、多文化理解を深め、世界的な視野を持った人づくりを推進する。
 - a 国際理解教育を充実させ、世界の人々に信頼され、国際社会の一員としての責任を果たせるよう、国際性豊かな共生の心を育む。
 - b 特に国際コミュニケーションコースにおいては、英語によるコミュニケーション能力のさらなる伸長を図るとともに、さまざまな分野において国際舞台で活躍できる人材を育成する。
- エ 保護者・地域等との連携・協力を密に行いつつ、社会に貢献できる人づくりを進める。
 - a 生徒の地域社会の活動への参加及び地域住民の本校教育活動への参加等、開かれた学校づくりを積極的に進め、家庭・地域社会と互いに連携しながら、いきいきとした魅力ある教育活動を展開する。
 - b 自主自律の精神に富む人づくりに努め、明朗・闊達な精神と文化を尊ぶ校風の継承と発展を図るとともに、時代の進展や社会環境の変化に対応した学校づくりに取り組む。
- オ 組織的・計画的な教育活動への取組と職員研修の充実を図る。
 - a 本校教育目標の実現をめざし、各教職員が学校組織の一員として緊密に連携し、協力しながら、それぞれの課題に取り組む。
 - b 新学習指導要領の本格実施、高大連携、高大接続改革等、教育環境の変化に対応し、生徒の夢をかなえる教育の充実を目指し、校内研修機会の充実、校外研修への積極的な参加、個々の教員による積極的な自主研修への取り組みなど、力量向上に向けた取組の充実を図る。

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む。）の重点

(1) 教科指導

- ア 第1学年においては、全員共通の教科・科目を学習し、基礎基本を身につけることにより、将来の進路選択の幅を広げ、学年の進行とともに興味・関心、進路、適性に応じて科目を選択するための礎とする。
- イ 第2学年からは複数の選択科目群を設定し、進路実現に向けた多様な選択を可能とする。
- ウ 各教科間の十分な連携のもとに各教科の指導計画を立て、思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む意欲・態度等の確かな学力を身につけさせる。
- エ 特に国際コミュニケーションコースにおいては、学校設定科目の開講等、特色のある教育課程編成により、英語によるコミュニケーション能力の伸張を図る。また、第2外国語(中国語・韓国語)の学習等を通して異文化理解、多文化共生社会への理解を深めさせる。
- オ 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)をはじめ、タブレットPCを用いたICTの活用等を通じて、学習意欲を高めるとともに確かな学力の定着に効果的な授業を展開する。
- カ 教科・科目の適切な選択や学習活動のためのガイダンスをきめ細かく行い、将来の進路実現の基盤となる力を充実させる教育活動を行う。
- キ 少人数制・習熟度別授業などを実施し、一人一人の興味・関心に応じた学習指導を行い、主体的に学習に取り組む意欲・態度を養う。
- ク 「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の取り組みにおいて、高大連携等を積極的に活用し、生徒の興味・関心に応じた選択講座のなかで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

(2) 生徒指導

ア 基本方針

- a ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動等を通じて、社会的責任の自覚を促し、自己教育力と奉仕の精神を持った人格の育成を図る。
- b 学校生活におけるあらゆる機会を捉えて、主体性や責任感を育て、社会のルールを守る態度やマナーが身につくよう指導する。
- c 学校外での体験活動を進め、様々な人々との交流の場を設け、個人または集団の一員としての望ましい在り方・生き方が身につくよう指導する。
- d いじめ防止に向け、日常の指導体制を整備するとともに「学校いじめ防止基本方針」に則

り、安心して学校生活を送れるよう、適切かつ速やかな対応を図る。

イ 特別活動

ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動、学校行事等の場において、自分の意見を明確に述べるとともに、他人の意見をよく聞く態度を育成する。また、ともに協力し合い規律正しい生活を送る習慣の育成に努める。

ウ 部活動

興味・関心、能力・適性の伸長と望ましい人間関係の育成をめざした部活動の活性化を推進する。

エ 学校行事

修学旅行、その他の体育的・文化的行事の充実を図り、基本的生活習慣や体力及び豊かな人間性の涵養、他者との関係構築のための学びの場とする。

オ 進路指導

- a 自らの在り方・生き方を考えさせる体験的・啓発的な進路指導及びキャリア教育の充実を図る。
- b 将来の進路実現に向け、適切なコース、科目選択等を可能にするガイダンスを実施するとともに、キャリア形成能力の向上を図る。
- c 3年間を見通したキャリア教育及び進路指導を組織的・計画的に推進する。
- d タブレットPC等を利用した進路情報を必要に応じて提供し、生徒のキャリア形成能力の向上を図る。

カ 生活指導

- a 学校行事等を通して、他者との連帯の必要性を自覚し、責任ある行動が取れる人づくりに努める。
- b 品位のある生活態度を養成し、生徒の人格の向上を図る。
- c 保護者との連携・協力を密にし、家庭とともに生徒の人間としての成長を支援する。
- d ホームルーム活動、講演会、授業等、あらゆる機会を活用し、情報モラルを育成する。

キ 人権教育

- a さまざまな人権課題に関する正しい知識を身につけさせるとともに、他者に対する思いやりの心を育成する。
- b 自他の命を守り、尊重するために、防災・安全教育、交通安全教育等をはじめとする命の教育を推進する。

ク 道德教育

- a 恵まれた自然環境の中で、自然に感謝し他を慈しむ心を養うとともに、公德心の育成に努める等、心の教育の充実を図る。
- b さまざまな体験活動を通して、自己の在り方・生き方について考え、生命の尊厳等に関心、自他を肯定する態度や心を育てる。
- c 校舎・敷地等の環境美化に進んで取り組む態度や姿勢を養い、自己の周囲の環境を守り、愛する心を育てる。

ケ 特別支援教育

- a 特別に配慮を要する生徒について、職員全体で絶えず情報を共有するとともに、生徒の実態に即したきめ細やかな合理的配慮を行う。
- b 中高連携シートの適切な活用など、中学校との緊密な連携を図るとともに、外部専門機関との積極的な連携を推進する。
- c 通級による指導等の適正な実施に向けて、特別支援教育委員会をはじめとした校内体制の整備を図るとともに、職員全体での組織的な対応に努める。

コ 情報教育

メディアリテラシーや情報モラルを中心に、インターネットやSNS等の活用や情報機器の取り扱いにとどまらず、さまざまな情報を正しく把握する力を育成し、人権意識やモラルの向上を図るべく、教科等横断的な視点に立った情報モラル教育に取り組む。

3 健康管理に関する指導の重点

(1) 保健に関する意識の高揚

保健衛生に関する知識を深めるとともに健康管理に対する意識を高め、これらを実践させるように努める。

(2) 実践に即した健康指導

各種検査・検診を通じて健康状態を把握し、健康の保持・増進を図るとともに規則正しい生活を習慣づける。

(3) 健全な精神と体力の養成

基礎体力を高め、強い精神力を養う。また、生涯スポーツの基礎となる体力、精神力を培う。

(4) 安全教育の推進

校内の安全管理を徹底するとともに、交通マナーを守る態度を養い、交通事故防止の徹底を図る。すべての生徒が市民救命士の講習を受け、救急処置を体得する。人的・物的要素により生じる危機に対してAED等で迅速に対応する力をつける。

(5) 校内の環境衛生の整備

校内の環境整備と美化に努める。

(6) 教育相談活動の充実

放課後等を利用したキャンパスカウンセラーと連携した教育相談の整備と充実を図る。

(7) 性教育・薬物乱用防止教育の推進

ア 性教育は人間の総合的教育であるとの認識のもとに、性教育の推進に努める。

特にLGBT等の性的マイノリティーに対する差別や偏見を助長することのないように配慮しながら、丁寧な実践に努める。

イ 感染症やアレルギー疾患などについて、正しく理解させ予防する能力や態度の育成を図る。

ウ 薬物（覚せい剤や大麻等）に対する正しい知識を身につけ、薬物乱用防止の徹底を図る。

4 校務分掌（別紙）

5 研究テーマ

(1) 興味・関心適性等に応じ、一人一人の学力を向上させる授業等の在り方に関する研究

ア 生徒の興味・関心を引き出し、確かな学力を向上させる授業等の在り方について、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）やタブレットPCやスマートフォンを効果的に用いたICT活用等によるUD（ユニバーサルデザイン）の視点を取り入れた授業研究を推進する。

イ 生徒にとって身近な地域の課題解決や探究的な学習活動に主体的・創造的かつ協働的に取り組む態度を育成する授業の在り方について研究を推進する。

(2) 生徒一人一人の進路希望を実現するための教育課程のあり方についての研究

ア 新学習指導要領（主体的・対話的で深い学び）の本格実施、高大連携・高大接続改革を視野に入れた進路指導に関する研修を推進する。

イ 急激に変化する社会の中で、生徒自身が適切な進路選択を行うためのキャリア教育の実践について研修を進める。

(3) 政治的教養を育む教育のあり方についての研究

今年度4月より成人年齢が18歳となり、高校生が有権者として選挙を通じた政治参加がより身近になったことを踏まえ、政治や選挙に関する理解を深め、国や地域の課題を理解し、多面的・多角的に考え、自分なりの考えを形成し、根拠を持って自分の考えを主張しつつ、他者の意見に耳を傾け合意形成を図ることができるような授業をすべて教科・科目において実践するための取組について研究を進める。

6 高校生ふるさと貢献・活性化事業で実施する内容

- (1) 「自治体や企業等との協働による地域活性化活動」をメインテーマに、北区の県立高校として、神戸市北区役所まちづくり課とタイアップした「北区活性化プロジェクト（仮称）」に参加・協働することにより、地域活性化に貢献する。
- (2) 地域安全活動や環境保全活動として、近隣地域と連携した清掃活動等の地域貢献活動を展開することにより、地元を愛する心、主体的に地域に貢献しようとする意欲や態度を育てる。
- (3) 地域の文化・スポーツの拠点として近隣地域と連携し、本校施設や鈴蘭台周辺の施設を活用しつつ、特別活動の中での諸活動、部活動における活動を通して、全校生徒が主体的に地域住民と交流する機会を設ける。
- (4) 「総合的な探究の時間」においても、高大連携の一環として協定締結している流通科学大学の講師を招聘し、2年生全員が北区活性化プロジェクトをテーマに、SDGsの視点・知識を活用しながらグループ毎に課題研究を行い、最後に成果を発表する。さらに、2グループについては地域活性化（観光・マーケティング）をテーマに研究を進める。
- (5) 上記の4点について、以下のような事業を実施する。
 - ア 地域と連携した生徒会による朝の駅前交通安全運動
 - イ 北区クリーンアップ（清掃活動）＆フラワープロジェクト（鈴蘭台駅前広場交番横の花の寄せ植え）大作戦
 - ウ 幼児・高齢者とのふれあい交流（保育所、高齢者施設等への訪問）
 - エ 小・中学生との和太鼓交流による交流、和太鼓教室の開催
 - オ 北区住民による「三世代ふれあいコンサート」への参加
 - カ 高齢者施設「ゆうゆうの里交流会」の実施

7 高校生就業体験事業～インターンシップ推進事業～で実施する内容

進路講演会・職業ガイダンスや職業体験活動を実施し、キャリア・パスポートやポートフォリオの効果的な活用を行いながら、下記の行事等を通して、生徒各自の主体的なキャリアプランニング（進路設計）を支援するとともに望ましい職業観・勤労観を育成する。

- (1) 進路別ガイダンス、職業別ガイダンス
- (2) 大学訪問、講義体験
- (3) 高校生ふれあい看護体験
- (4) 保育所訪問、福祉体験学習
- (5) インターンシップ（就業体験）
- (6) JICA関西訪問

8 高校生キャリアノート及びキャリアパスポートの活用に関する内容

以下の項目について、中学校から引き継いだ「キャリア・パスポート」を活用するとともに、授業、ホームルーム活動、特別活動、学校行事等において、「高校生キャリアノート」の内容を適宜活用し、効果的なキャリア形成に取り組む。

- (1) コミュニケーション能力、自己PR力の向上
- (2) 体験的な手法による自らの在り方・生き方を考える進路指導
- (3) 自らの進路実現や適切なコース科目選択を行うガイダンス
- (4) 3年間及び生涯を見据え自己実現を図る力の育成

9 県立高校特色づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～で実施する内容

国際コミュニケーションコースを中心に、英語4技能向上のための実践的な外国語運用能力を磨き、異文化体験、国際交流事業を展開し、将来において世界的な視野とコミュニケーション能力を持ち、多文化共生社会に寄与し、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成する。

- (1) 英語集中コミュニケーション講座及び外部外国人講師による土曜英会話教室
国際コミュニケーションコース在籍生徒の英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション力を高めるために、外国人講師による英語での交流やワークショップを開催する。

(2) 国際理解講演会・短期海外研修報告会

企業海外駐在員・国際交流活動実践者等による講演会を複数回実施し、その中で短期海外研修参加生徒による研修報告も行うことで、全校生徒の国際交流事業への積極的な参加に向けた機運を醸成する。※今年度も短期海外研修代替として、8月にイングリッシュキャンプを実施予定。

(3) 留学生との交流

本校と協定締結している流通科学大学の留学生を招いて、様々な交流活動やディスカッションを通じて、日本文化や国際問題についての見識や理解を深める。※今年度もフランスより短期留学生を迎える予定である。

(4) 特別講座

幅広い分野から様々な体験を持った講師を招き、生徒のキャリア形成を育て、視野を広げる機会を設ける。

(5) JICA研修員（青年海外協力隊参加者等）との交流

世界の様々な国や地域から来日しているJICA研修員を訪問、もしくは本校に招くなどして、本校生との懇談・交流会を行うことで異文化理解を促進し、生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を含め、グローバルな視点を持つ教育活動の一助とする。また、保護者や地域住民にも参加を呼びかけることで、本校が地域の国際交流拠点としての役割を果たす。